

塘研究室現地調査報告



9月23日と24日、両日ともに生憎の雨でしたが、裏磐梯地域の池沼及び長瀬川にて、底生動物の調査を実施しました。調査者は塘研究室の大学院生、4年生、教員に黒沢研究室の大学院生（24日の池沼の調査のみ）を合わせた6名でした。

23日は五色沼沼群のすべての池沼において、底生動物の調査を実施しました。また、7月に長瀬川小野川橋（乙女沼と小野川湖の間）で生息を確認したオオシマトビケラの分布及び生息環境調査（流速、水温やpH・EC測定を含む）を、桧原湖～中瀬沼～名無し沼（乙女沼の上流側の沼）それぞれの間、小野川湖流入部付近、蛇平橋付近（秋元湖から流出する長瀬川との合流部より前）、秋元湖流出部付近で実施しました。気温が15-16℃と低い一方で、長瀬川の水温はどこも高く、20℃前後を示しました。

24日は桧原湖畔のニチレイ社有地内の3つの池沼にて、底生動物と水生植物を調査しました。この日の調査ではボートを使用した湖内での採集・採取も実施しました。また、長瀬川のオオシマトビケラについては、小野川橋付近にて生息環境に関する調査を実施しました。

桧原湖、秋元湖ともに今夏の降水量が少ないためか水位低下が著しかったです。その影響からか、ニチレイ社有地内の池沼の水位も相当に低下していて、水温測定用のロガーが陸上に上がってしまっていました。